



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.2.2 No.3154

23月決戦の最先頭へ!

＝ 銚子支部第10回大会かちとる ＝

銚子支部第十回定期大会は、十二・五、一・一八ストライキを会社・権力・JR総連らによるスト圧殺・スト破り策動に抗し、断固闘いぬいた組合員の熱気もさめぬ一月二十六日、市内宮崎ホテルにおいて開催された。

大会は、郡執行委員の「本大会を圧倒的に成功させる清算事業団期限立法切れの総決起の場にしよう」との開会宣言後、議長に加瀬君を選出した。

錦織支部長は、「昨年一年間は文字通り闘いの連続と言っても過言ではなかった。われわれは一時のやすらぎさえ求めず、十二・五、一・一八ストライキで発揮した『団結力』で、二十八名の解雇者、十二名の清算事業団組合員、営業におお強配転されている組合員を必ず原職奪還するまでこれからも闘いを積み重ねていく」と決意された。

来賓に、本郡中野委員長、小川衆議院議員、山口地区労議長、佐藤市議をむかえ、中野委員長は、「十二・五ストライキ突入を目前にした午前二時、支社とトップ交渉に臨んだ、双方一定の合意に達しながら、文書整理の段階で会社は、一方的に『歪曲』した内容を提示してきた。もちろん、われ

われが認めないとわかっていながら意図的に出してきた。これが今のJRのやり方だ、動労千葉はこうした理不尽な会社を追及していくために、これからは闘いぬく」とあいさつされ、小川議員は「来る総選挙での必勝にむけ共に連帯して頑張りました」とあいさつされました。

議事は、経過報告を越川副支部長、方針を鈴木書記長が、決算及び予算を川越執行委がそれぞれ一括提案し質疑に入りました。活発な討論を経て、方針を満場一致の拍手で採択した。

「われわれ銚子支部四十五名は、いかなるスト破壊や組織破壊に屈することなく、二、三月決戦を全支部の最先頭で闘うことを誓う」との力強い渡辺特執の団結ガンパローをもって第十回大会を圧倒的に成功させました。

役員体制

支部長	錦織 芳雄
副支部長	越川 幸夫
書記長	鈴木 貴雅
執行委員	川越 一夫
執行委員	郡 雅己
執行委員	関根 一美
特別執行委	渡辺 靖正

清算事業団闘争勝利の道示した 12.5 - 1.18スト。

第1回労働学校報告(その2) 日刊3153よりつづ

二波のストの成功は、組合員の団結力、決意はもとよりストを打てる情勢が熟していたからだ。

清算事業団と続発する事故問題は政府・JR当局にとってアキレス腱であり、同時にわれわれにとっても死活のかけがえのない闘いである。

九〇年代を決する闘争の焦点は「天皇」「三里塚」「国鉄(JR)」といえる。一二、五、一、一八の闘いは動労千葉の八〇年代闘争のけじめと「連合」下におけるJR体制打倒に向けた総反抗の一步であり、JR発足以来初めての本格ストとして勝利した。

・ 一一一、五五ストライキ

東中野事故一周年のこの日最高のタイミングで闘われた。事故→運転保安を社会問題化、労使問題化させ「闘いなくして安全なし」これをはっきりさせたのである。

また清算事業団闘争の勝利の道を示した。労働委員会依存とカンパニア主義だけではダメだ。この闘いは全国鉄労働者へ最大のインパクトを与え、一、一八国労決起を作り上げた偉大な闘いであった。

・ 一一一、一八スト

動労千葉の清算事業団闘争である。国労の本州切り捨てに抗し、本州の事業団の仲間を本州で採用しろという闘いを、自力決着のかまえて闘った。更に定年制改悪、JR-JR総連・革マル体制打倒に向けた闘いである。勝利に安住することなく更に気を引き締め密集せる反動(業務移管、組織破壊攻撃)に対する闘争体制を構築し最大の山場二三月決戦を闘おう。

九〇年代の労働運動はその質が問われている。国鉄闘争の全階級の位置を徹底認識し、敵を見据え、一戦、一戦を決戦とし、獲得目標を明確にし闘わなければならない。

われわれは中途半端な闘いはやらない。決起したなら貫徹する。孤立を恐れないが常に連帯を迫り及し闘う。

―― 自立、自立、闘闘、連連世帯――

それが九〇年代の闘いだ。